

こどもと健康

NO・139

2013・9・24

RSウイルス感染症の流行始まる！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。RSって何？と思われる方も多いでしょう。Respiratory Syncytial の略で要するに風邪の病原体の一つです。このウイルスの感染力は強く、保育所を中心に流行します。年長児以上は鼻カゼ程度でおわるケースも多いのですが、乳児が罹ると重症化することがあります。インフルエンザウイルスと同じく、冬のウイルスですが、今年は昨年同様9月から流行しています。潜伏期は4~5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴う事もあります。特に、6ヶ月未満の乳児が罹ると、更に喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）を伴った咳をして呼吸数が増え、陥没呼吸をします。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎となることがあるので、注意が必要です。ありふれたウイルスですので、1歳までに半分、2歳までに殆んどの子が一度は感染を受けますが、初感染の時に最も症状が強く出ます。何度でも罹患しますが、年長児になると次第に症状は軽くなり、鼻カゼ程度で終わる子もいます。お母さんからの免疫移行がない為、新生児でも罹患して重症化することがあります。未熟児や先天性心疾患、慢性肺疾患の乳児には重症化を予防する為、抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体（シナジス）の注射を流行期の秋から春にかけて月1回注射して感染を予防することが出来ます。

インフルエンザと同じく飛沫感染をしますが、経口感染もあって赤ちゃんはなんでも口に入れますので、注意が必要です。感染の予防にはうがい、手洗いとアルコールによる消毒です。風邪をひいたら、咳エチケットを守り、特に赤ちゃんが口に入れるおもちゃやドアノブ等を消毒しましょう。家庭に乳児がいる場合は家族が鼻カゼ程度でも注意が必要です。

感染症サーベイランスの9月2日からの第36週では福岡県、大阪府、東京都、新潟県に多く、過去最大の流行年の昨年と同じ程度です。年齢は0歳児46%、1歳児32%、2歳児12%と3歳未満で9割を占めます。寒くなるにつれて増加し、昨年は年末に流行のピークとなり、春まで流行が続きました。泉北ニュータウンでも流行している保育所があります。RSウイルスの迅速検査がありますので、ヒューヒュー、ゼーゼーを伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

11月から13価小児用肺炎球菌ワクチンに

本年4月から定期接種となった小児用肺炎球菌ワクチンが7価から13価ワクチンに強化されます。93種ある肺炎球菌のうちこれまでは7種でしたが、13種が入ったワクチンが使用できるようになります。11月1日になったら変更されますので、11月を待たずに引き続き接種を続けて下さい。常在菌ですので、待っているとその間に罹る可能性があるからです。尚、既に7価の接種が終了した6歳未満の幼児も1回だけ任意接種（有料）を受けることができます。

風疹の流行、終息に向かう！

先天性風疹症候群増加中！

昨年から関西で始まった風疹の流行は、今年になって関東に拡大、その後ふたたび関西でも流行しました。第19～22週は全国で800例を超えていましたが、その後減少に転じ9月2日からの第36週は37例とピークの20分の1にまで減少しました。今年の累計は13987例に達し、東京都3328例、大阪府3152例、神奈川県1636例、兵庫県1153例と続きます。患者さんの77%が男性でそのうち30歳代が34%、20歳代が24%、40歳代が24%を占め、一方女性では20歳代が41%、30歳代が16%、15～19代が11%を占め、その割合は流行が始まってから殆んど変化していません。これは1977年～1995年まで中学生女子のみを対象に風疹ワクチンが接種され、その後2003年までは男女ともに接種対象になりましたが接種率が低かった上、2回目のワクチンがされなかった影響が大きいようです。流行の拡大に伴い、心配していた通り先天性風疹症候群が増加してきました。2004年に10例の報告がありましたが、その後7年間で5例（うち3例は東南アジアからの輸入例）に過ぎませんでした。所が昨年秋から関西を中心に5例が、今年になって9月11日現在、関東を中心に13例（8例が東京都）が報告され、秋以降関西を中心に再び先天性風疹症候群の児が増加する恐れがあります。

今年の流行はこのまま終息するでしょうが、来春再び流行する可能性があります。予防にはワクチン接種しかありませんが、妊婦さんにワクチン接種はできませんので、ご主人始め同居家族が風疹ワクチンを受けるようにして下さい。1回しか接種を受けていない世代の24歳以上で（23歳以下でも高校3年生の時に2回目のMRワクチン接種を受けなかった人も）将来妊娠を希望する女性はワクチン接種を受けて下さい。

堺市では9月30日迄に限り、19歳以上の（1）（2）に当てはまる方に予防接種費用の一部助成をしていますので、自己負担額は1000円です。（1）妊娠を希望する女性（妊娠中はできません）（2）妊娠している女性の配偶者（婚姻関係を問いません）接種ご希望の方は電話で予約をお願いします。この期間を逃すと任意接種（有料）となります。

子宮頸癌予防ワクチン、接種勧奨中止継続

本年4月からの予防接種法改正により、定期接種となった子宮頸癌予防ワクチンが複合性局所疼痛症候群（CRPS）の疑い例が報告されたので、一時接種勧奨を中止することになりました。

子宮頸癌予防ワクチン接種後に注射部位に限局しない筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み、しびれ等が現れ、長期間持続するCRPS疑い例が5例、慢性疼痛が38例報告されました。これらの慢性疼痛症例やCRPSがワクチンと関連があるのか、詳しく調査分析されますので、結果が出るまで一時接種勧奨を中止することになりました。日赤の献血者でも2009年度に約530万人のうちCRPSは24例発生しており、ワクチン接種者は累計300万人位ですので、必ずしも多いとは言えません。結論が出るまで、当院でも一時中止しますが、既に1回目、2回目の接種が済んでいる人で、希望される方には接種しますので、ご相談下さい。

尚、日本産科婦人科学会では去る8月31日声明を発表し、「ワクチンの有効性と安全性は世界的に認められている」との見解を示した。その有用性から安全が確認できれば接種勧奨再開を検討するよう、厚生労働省に求める要望書を提出することになっている。

B型肝炎ワクチンを接種しましょう！

7月28日は「世界肝炎デー」です。 本年4月から予防接種法が改正され、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸癌予防ワクチンが定期接種となりました。 今後、水痘（みずぼうそう）ワクチン、ムンプス（おたふくかぜ）ワクチン、B型肝炎ワクチン、成人用肺炎球菌ワクチンに拡大されることが期待されます。 それまでは任意接種で対応するしかありません。 1992年にWHOは加盟国に接種勧奨し、現在では加盟193カ国中177カ国で定期接種化されており、残念ながら日本は数少ない国になっています。 日本人の1～2%程度には症状のないキャリア（健康保菌者）がいますが、血液だけでなく唾液、涙、汗、尿、精液等にもウイルスは検出されます。 保育所、幼稚園、学校等集団生活により感染する可能性があります。 キャリアは数年～数十年後にB型肝炎、肝硬変から肝臓に進行しますが、現在日本では肝臓で亡くなる方が約3万人、その3分の1がB型肝炎によると言われます。 B型肝炎ワクチンは癌予防ワクチンと考えられます。 幼少期に感染を受けると、キャリア化しやすいので、早めに接種をしましょう。 生後2カ月から接種できますが、ヒブ、肺炎球菌、4種混合ワクチンが済んでからでも良いでしょう。

かたぎり小児科ホームページ！

<http://www.katagiri-shounika.com/> 又は、「堺市 かたぎり小児科」で 検索。

インフルエンザワクチンの予約について

インフルエンザワクチンの予約を10月1日から開始します。 携帯電話、パソコンから下記アドレスにアクセスして予約をお願いします。 13歳未満は2回接種ですので4週間隔（3～5週で可）で2回とも予約して下さい。 接種は10月15日から開始します。 接種料金は1回2500円です。

<http://0722977771.com/i/>